

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
M212W403		看護学総合実習 (Clinical Practice of Nursing)					統合分野									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必須	2	4	医学部看護学科	前	他	日本語			複数(共同)							
担当 教員	氏名 看護系教員															
	E-mail 内線															
授業の概要	<p>本科目は、看護専門職に求められる探究心と、主体的・自律的に看護現象の課題を見出し解決する能力の育成を目指す。学生は、これまでの学びや体験を基に、実習計画の立案・実施・評価を自ら行う。この学修過程を通じて、エビデンスに基づいた看護実践力や、学び続ける姿勢、課題探究能力の基盤を培う。また、実習を通じて目指すべき看護について考察し、自らの看護観を育む。これにより、看護学の新たな知の探究に取り組む基礎的能力や、看護学への洞察を深めることをねらいとする。</p>															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	これまでの学習や看護体験の振り返りから、看護実践能力や看護学上の探究課題を明確にすることができる															
目標2	探究課題に関する理論や最新の研究を探究し、課題解決に向けた知識技術を説明することができる															
目標3	探究したエビデンスに基づいた実習目的や目標、具体的な実習計画を主体的・自律的に立案することができる															
目標4	立案した実習計画に沿いながら、個・集団・地域を対象とした看護実践を行い、評価することができる。															
目標5	自らの看護実践を振り返り、看護実践力の向上や探究課題に対して看護専門職者として考察することができる。															
目標6	実習全体での学びを通して、看護専門職としての自己の看護観を自分の言葉で記述することができる															
目標7	実践力向上のために学び続ける姿勢や探究する能力の獲得、看護専門職としての責任・責務を考察することができる															
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)										10	10	10	10	10	10	10
授業の内容																
1	本実習は、各看護学領域(基礎、精神、地域、母性、小児、成人、老年看護学)のプログラムに則って実施される。															
2	学生は、自分自身もつ看護学に関する疑問や興味、関心から追求したい課題を明らかにする。															
3	明らかになった課題に基づいて実習領域を選択し『実習課題届』を提出する。実習配置領域は『実習課題届』の記述内容によって調整・決定される。															
4	領域配置の発表以降は、領域毎に担当教員の指導を受け実習計画立案、実施、評価等を進める															
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラ ア ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	学生とともに看護実践に関わり、事物を探究することの楽しさや面白さを感じながら、自己の課題を追究できるよう支援する。また、学生が実践の看護としての意義に気付いたり、看護の専門性や責務について考えを深められるよう支援する。				工 夫 の 他 の										
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	実習領域が決定する4月～8月にかけ、自己の課題を明確にするために文献検討やグループディスカッション、教員との個人面談を受ける。また、明確になった課題を実習で解決するために実習計画書を立案し、教員・実習地の管理者やスタッフと事前の打ち合わせを行う(45h)														
	事後学修	日々の実践を通して自己の課題解決に実習に取り組むとともに、科学的な視点で自己の実践を分析し、根拠に基づいた看護に対する理解を深める。また、実習終了後に自己の看護の振り返りとなるレポート作成に取り組み、看護学の洞察を深める(30h)														
	想定時間合計	90														
教科書	必要に応じて各領域より提示する															
参考書	関連する教科書、参考書、講義資料、文献等															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題の明確化と実習計画立案	40%										
	実習	40%										
	課題レポート	20%										
	・実習計画立案から実習全般、課題提出において、総合的に評価する。											
注意事項	4年次の4月に全体オリエンテーションを行うので参加すること											
備考	本実習は、各看護学領域における実習単位をすべて修得していることが履修条件である											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	原田千鶴（看護師） 清村紀子（看護師） 佐藤祐貴子（看護師） 野上龍太郎（看護師） 岩本祐一（看護師） 折橋隆三（看護師） 後藤奈穂（保											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	附属病院看護部職員、保健師、老健施設介護士・介護福祉士、実習病院看護職員											
実務経験を いかした教 育内容	臨床における最新の医療や看護の知識・技術に基づいた実践能力を習得する。 学生が将来就くであろう職業におけるロールモデルとして機能することで、看護観の育成や職業倫理に関する感受性を高める											